

2018年度教育研究活動報告用紙(様式9(2018))

氏名	伊藤直子	職名	教授	学位	学士(社会学)(佛教大学 1996年)
----	------	----	----	----	---------------------

研究分野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学 地域看護	公衆衛生看護 介護保険 地域包括ケア

研究課題
行政における看護職である保健師の機能と役割について考察する。また、それらの機能を学ぶための学士課程実習での教育方法を検討する。 地域包括ケアシステムにおける看護職の機能について検討する。

担当授業科目
公衆衛生看護学概論(後期)必修 15/15 コマ 疫学演習(後期)選択 15/15 健康危機管理論(後期)必修 8/8 公衆衛生看護管理演習(後期)選択 15/15 公衆衛生看護学実習(通年)選択 看護総合演習(通年) 15/15 看護総合実習(通年) 地域母子保健(前期)(助産別科) 8/15

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 公衆衛生看護学概論 】 「公衆衛生看護学概論」では、2018年度より1年生後期科目となった。初年次の学生に地域で看護を実践する視点の基盤を養成するための授業内容に一部変更した。また、保健師選択をしたいという漠然とした希望をもっている学生が、学年進行とともにキャリアデザインを描けるよう保健師活動に対する具体的な活動を盛り込む講義内容を加えた。毎時の授業コメントから学生の理解状況を判断し、次の授業で補足及び修正を図っていきながら、学生とのコミュニケーションに努めた。
授業科目名【 疫学演習 】 「疫学演習」では、保健師課程選択の科目である。演習のため、1単位であるが30時間の授業内容である。疫学・保健統計で学習した内容を、さらに、保健師が遭遇する事象で具体化した教材を作成し、単元毎に、予習での基礎知識の準備→実際の事例を取り入れた演習→復習を展開した。 授業展開について、教材事例の検討を毎年度実施し、新人保健師が遭遇する事例を精選し、思考判断の醸成に努めている。保健師として問題解決していく充実感を味わえるような工夫を行なっている。保健統計に苦手意識を持っている学生も理解できるよう、授業時間外においても希望する学生には補習を実施した。

授業科目名【 健康危機管理論 】 「健康危機管理論」では、健康危機管理の概念と日本における健康危機管理の社会システムを解説し、このような事態に対する看護職の果たす役割について考える必修科目である。 教材は、災害が多い昨今では、学生も身近に遭遇することを意識できるよう、日本における事例および世界の事例のできるだけ直近の内容を取り上げている。また、現実的な健康危機を学生たちが感じるための工夫として、DVD や写真等多く取り入れた教材により、看護職としての対応について考えを求めながら授業を展開した。授業のコメントカードに寄せられるコメントから昨今の日本における災害および感染症事例の関心が高く、受講開始は市民感覚としての意見から終了時点では看護師としての使命や責任についてのコメントが数多くみられ、学生自身も学修の意義や成果を実感している。
授業科目名【 公衆衛生看護学実習 】 「公衆衛生看護学実習」は、実習期間が5週間と長いため、学生の学習意欲が持続できるよう教員間の情報交換を密に行いながら、教育支援を行った。また、実習指導者および施設と教員間の共有も有効に機能し、学生の教育支援が効果的に運営された。従来と同様に、学生個々の学修状況の違いに即応した実習対応が実施され、全員の学生が到達レベルに達成することができた。 また、今年度も実習の成果指標である、保健師国家試験結果は、残念ながら1名の不合格者を出したが、概ね保健師選択学生の学修成果は評価できる。
授業科目名【 看護総合演習 】【 看護総合実習 】 「看護総合演習」「看護総合実習」は4年生が最終的な看護の統合として、自身が自ら演習及び実習領域を選択する科目として位置づけられている。公衆衛生看護領域である産業保健における保健師活動について、演習・実習を行い、就労者およびその家族における健康管理の現状および課題について、議論を進めていった。加えて、2018年度から行政機関の2か所から協力を得ることができ、行政保健師就職希望学生がさらに行政の課題解決に向けた実習を看護総合実習で展開することができた。今年度も受講した学生は、公衆衛生看護学実習において学習した生活エリアの現状から就労者の健康支援が結びつき、これからの包括的な健康管理のあり方に対して、道筋が明確になり、満足度や充実感が高い実習であったと評価している。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員	訪問看護委員会副委員長 （1996年4月～1997年3月） 訪問看護委員会委員長 （1997年4月～1998年3月） 介護支援専門員支援委員会委員長 （1997年4月～2004年3月） 認定看護管理者研修委員会委員 （2001年4月～2006年3月） 介護保険関連委員会委員長 （2004年4月～2006年3月） 第46回日本看護学会—看護管理—学術集会抄録選考委員（2014年3月～2014年9月） 消費税対応検討委員会委員長 （2015年11月～2016年7月）	1977年4月～現在に至る
日本公衆衛生学会		1979年4月～現在に至る
日本地域看護学会		1999年4月～現在に至る
日本在宅ケア学会		2000年9月～現在に至る
日本保健医療社会学会		2002年4月～現在に至る
日本病院管理学会		2002年9月～現在に至る

日本高齢者虐待防止学会 日本看護教育学会 日本健康教育学会 日本看護研究学会 日本看護科学学会 日本臨床救急医学会		2003 年 8 月～現在に至る 2003 年 2 月～現在に至る 2005 年 6 月～現在に至る 2008 年 4 月～現在に至る 2008 年 4 月～現在に至る 2011 年 8 月～2016 年 3 月
--	--	---

2018年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(その他)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
九州における産業看護職が担う保健活動の質向上のための支援の在り方	保健福祉学部附属保健福祉学研究所	○鹿毛美香 伊藤直子 (住徳松子) (日笠理恵)	232,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

福岡県介護保険審査会	専門調査員	2007 年 7 月～現在に至る
北九州市社会福祉法人等審査会	委員	2012 年 4 月～現在に至る
大分県地方独立行政法人評価委員会	委員	2012 年 6 月～現在に至る
日本私立看護系大学協会	理事（業務執行理事）	2013 年 7 月～2018 年 7 月
粕屋町高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定協議会	委員	2005 年 4 月～現在に至る
粕屋町地域包括支援センター・地域密着型介護サービス運営協議会	委員	2007 年 4 月～現在に至る
北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議調整会議	構成員	2012 年 4 月～現在に至る
北九州市高齢者支援と介護の質の向上介護予防・高齢者活躍推進に関する会議	代表	2013 年 4 月～現在に至る
北九州市健康づくり推進プランの推進にかかる意見交換会	構成員	2014 年 2 月～現在に至る
北九州市認知症施策推進会議（北九州市オレンジ会議）	構成員	2013 年 4 月～現在に至る
全国保健師教育機関協議会	社員	2015 年 4 月～現在に至る
福岡県総合計画審議会	委員	2016 年 7 月～現在に至る
行橋市地域保健計画策定委員会	委員	2017 年 12 月～2018 年 2 月 24 日
行橋市地域保健計画推進委員会	委員	2018 年 2 月 25 日～現在に至る
第 6 回北九州市健康づくり活動表彰選考	審査員	2018 年 10 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）		
学校法人西南女学院	評議員	2005 年 4 月～現在に至る
西南女学院大学	教務部長	2013 年 4 月～現在に至る
・教務委員会 委員長 ・教務人間科学小委員会 委員 ・教職課程委員会 委員 ・教員免許状更新講習会 委員 ・大学点検評価改善会議 FD 部門 部門長 ・教育の質保証プロジェクト会議 代表 ・教学マネジメント検討会 構成員 ・3 部門会議（教務部・学生部・入試部） 構成員 ・教学 I R 推進室 構成員		